

若者の発想で介護予防

高齢者と一緒に
大山崎町の実施
する介護予防事
業を体験する学
生ら―大山崎町

大山崎町は大阪人間科学大（大阪府摂津市）と共同して、「介護予防新規事業構築プロジェクト」を進めている。高齢化社会への対策として、大学の専門性と若者の柔軟な発想を施策に生かそうという試みで、学生は「楽しみながら介護予防ができるような事業を考えたい」と意気込んでいる。

大山崎町と大阪人間科学大

同町の高齢化率は約25％で、介護保険制度が始まった2000年度から約10％上昇している。それに伴い保険給付費も伸び続け、00年度と比べて昨年度は約6億円増加の約9億8千万円で、町財政を圧迫している。

学生はゼミや講義、夏休み期間などを使って取り組んでいる。話し合いや町の現状を把握する調査、町が実施する介護予防事業の体験などを通して、大山崎町にふさわしい事業の形を模索している。今後は、高齢者生活マップ作りや住民参加のワークショップの開催も予定している。

現状を改善するため、町が同大学に協力を依頼した。同大学医療福祉学科介護福祉専攻が全体で携わることになり、今年5月にプロジェクトを発足させた。テーマは「楽して、本年度中に報告書を出すこと」によって、自然提出してもらおう。実現可

現状調査、事業に反映



「楽しい生活」手助けを

能な事業は、来年度以降大阪市住吉区は「高齢者の介護予防事業に反映する。大山崎町で楽しく生活

学生プロジェクトチームのリーダーで同大学4年

の後藤茜さん（21）は「楽しい生活」手助けができたらうれしい」と話す。

（峰政博）